



とえいゃ〜元気!  
JAM・P愛知

☆ JAM・P愛知とはJAM東海(愛知)に集まる  
次世代の労働組合を担う青年男女組合員育成を目的とした協議会の名称です。

## リフレッシュスクールを開催します!

毎年多くの青年組合員に参加して頂いている「JAM・P愛知2019リフレッシュスクール」の開催日が決定しました! 社外の方々とたくさん交流できるイベントです!

開催日: 2019年9月6日(金)~7日(土)  
場所: 岐阜県 高山市 清見里人学校  
内容: 1日目 異業種製造現場の見学と野外活動  
: 2日目 体験学習・伝統文化交流

●概要● ※現在、施設と調整中のため内容が変わる場合がございます。ご了承ください。

1: 異業種製造現場の見学

私たちJAMだと味わえない「食品製造工程」を見学して食品製造にしかない苦労や大変さ知って、我々の製造現場との違いを学ぶことを目的にしています。  
見学場所(案): 板蔵ラーメン本店

2: 野外活動

高山市の自然の中で交流を深める活動を行う予定です。  
参加者全員でのチームスポーツや食事作り、交流会を企画しています。

3: 体験学習

『健康増進活動&伝統文化の体験』をテーマで体験学習を行う予定です。  
候補: ヨガ、郡上踊り、食品サンプル作りなどなど・・・



参加募集は今後地区協議会を通じて行います。詳細は、所属労働組合までお問い合わせ下さい。



たくさんの皆様のご参加をお待ちしております!

報告者:

JAM・P愛知リフレッシュスクール担当常任委員

妻鳥 光弘(三洲電線労組)

大河内 隆夫(クロダイト工業労組)

野田 大空(村田機械労組)

過去のリフレッシュスクールの様子

## プルタブ回収報告

JAM愛知青年協議会では、JAMが推進するボランティア活動の一つとしてハートエイド21活動を行っています。ハートエイド21という名前には、「ボランティアをする・されるといった垣根をなくした双方向ボランティアを理念とし、活動にたずさわった人すべての心が救われるような活動が展開される21世紀にしたい」という意味がこめられています。

具体的な活動内容として、募金活動やプルタブ回収に取り組んでおり、これまでは募金やプルタブを換金したお金で椅子を購入して、施設へ寄贈する活動を行ってきました。

プルタブ回収について2019年3月における回収状況を下表にて報告します。(単組毎に回収日時が異なり、現時点で回収できていない単組においては記載しておりません。)

皆様の単組におかれましても、今後も引き続きご協力の程宜しくお願い致します。

組合名	重量(g)	組合名	重量(g)	組合名	重量(g)	組合名	重量(g)
KYB	5,450	CKD	6,950	TDEC	2,200	丸茂工業	5,150
KVK	13,050	ダイキン工業	1,800	オークマ	19,150	旭テックメタル	1,700
関ヶ原製作所	350	トヨタ電機	950	村田機械犬山	46,300	オーエスジー	58,100
愛知時計電機	82,150	ファインシンター 春日井	4,700	三洲電線	200	日本車輛名古屋	15,400
旭精機工業	7,850	豊和工業	6,600	橋本電機工業	4,200	ダイバア	12,400
単組報告 合計重量	294,650	実質 合計重量	270,000	換金額		¥29,160	



2019年4月20日（土）に名古屋市ワークライフプラザ・れあるにてスプリングセミナーを開催しました。

今回のセミナーでは「スマホ依存の恐怖を知り使い方を今一度考え直そう」をテーマに掲げ、今後の健康被害や悲しい事故などスマホによる被害が起きないようにスマホ所有率の高い我々、若年層が向き合い方を改め考え直すことを目的として開催しました。

講師として2016年10月にながらスマホ運転によって事故で息子さんを亡くされた愛知県立一宮東特別支援学校の則武崇智（たかとし）様よりご講演いただきました。

則武様の息子さんの敬太（けいた）くんが身につけていたランドセルや事故でつぶれた水筒、敬太君の遺影などを見せていただきながら交通事故当日の朝から事故後のご家族の心境まで交通事故被害者の生の声を聞かせて頂くことができました。ながらスマホ運転による交通事故の恐怖や影響の大きさを知り、悲しい事故を絶対に風化させてはいけなく強く感じさせられました

講演後にはスマホ依存による「身体への影響」「精神への影響」をお題に出し、どのような影響が出るのかグループディスカッションをして、その後1分間の発表を行いました。また発表後には担当常任委員よりスマホ依存による影響の一覧を紹介させて頂きました。スマホとの付き合い方を考える良い時間になったと思います。

今後もスプリングセミナーの目的である「現代社会に役立つ問題を学習し知識の向上を図る」に繋がる企画を立案し、開催しますのでみなさんのご参加を心よりお待ちしております。

報告者：JAM・P愛知スプリングセミナー担当常任委員

柴田 剛宏(豊和工業労組)・河合 聖弥(メイラ連合労組)



講演の様子



グループディスカッションの様子



全体集合写真

## ボランティア活動予定紹介

JAM・P愛知で毎年行っているボランティア活動の開催日が決定いたしました！

今回のボランティア活動は、**豊橋中央高等学校とのコラボ企画**を行います。

日時：7月27日（土）  
 場所：午前の部：表浜海岸  
 午後の部：国民休暇村 伊良湖  
 内容：午前の部：リアカーボランティア  
 午後の部：交流会

### 概要

- ①リアカーボランティア  
 豊橋中央高等学校のボランティア活動の主力企画です。  
 リアカーを引きながら海岸清掃を行い、拾ったごみはリアカーに積みます。
- ②交流会  
 地元で収穫した野菜を使用し、PTAの方にカレーを調理してもらい、調理したカレーを食べながら高校生たちと交流します。



●コラボ企画の経緯  
 ボランティア企画は前年まで、児童養護施設の子供たちと行っておりましたが、企画がマンネリ化していると感じておりました。JAM・P愛知の「変化の年」の方針で思い切ってコラボ企画を開催することに決定しました。

今回、初の試みとして、**一般組合員の方々にもご協力頂こう**と考えております。  
 ボランティア活動に興味のある方は、参加してみたいかご検討でしょうか？  
 高校生と一緒に我らの愛知県を綺麗にいきましょう！

報告者：JAM・P愛知ボランティア担当常任委員

伊藤 智弥(名古屋電機工業労組)・高島 悠里(旭精機工業労組)

# 豊橋中央高校リアカーボランティア



From2004

## 平成16年、夏一 高校生に出来るボランティアとしてスタート。自分たちにも出来ることに目を向けながら…

豊橋中央高校は年間のボランティアの参加率が高い状態にあります。しかしその活動内容は決して主体的なものとは言えませんでした。生徒会では、ボランティアの本来のあるべき姿を考えようと思いました。そして、誰にでも出来るボランティアとして挙げたのは、清掃活動でした。簡単で基本的な活動であると共に、生徒自身が充実感と達成感を得られるものです。私達が過ごしている豊橋という地域を超えて、ひと夏に出来る限りの街をきれいにしようと思いました。拾ったゴミはリアカーに積みます。こうして、旅と冒険の要素を詰め込ませたリアカーボランティアが誕生、ゴミゼロ(530)運動発祥の地・豊橋市の高校生として“自分たちに出来るボランティア”としてスタートしました。



## 清掃した街は、少しずつ“自分たちの街”へと行って行きました。

最初に行なったのは「三河湾一周」。豊橋を出発し、蒲郡・幡豆・吉良・一色・半田・武豊・河和・師崎・伊良湖・田原…。清掃活動の総合距離は約180km。一日の清掃活動距離は平均20kmでした。炎天下での活動のため暑さは覚悟していたが、アスファルトの上は想像以上。体調面・安全面、あらゆることでお互いに気を配り、何よりも声を掛け合って協力することを第一に取り組みました。参加生徒は日を重ねるに従って、強く、たくましく、そして、優しくなって行きました。それまでの“知らない街”は、自分の足で歩いてゴミを拾ったことで少しずつ“自分たちの街”となって行きました。



## ゴミを拾い 歩き続けることで、街と人と自分の存在が 繋がりはじめていくのを感じました。

平成17年の夏には清掃エリアのテーマを「東海道」とし、豊橋から沼津までのおよそ240kmの活動を行ないました。距離が長くなるほどに達成感と充実感が生まれました。舞阪・浜松・磐田・菊川・焼津・静岡・清水・由比・田子の浦… 見ず知らずの人から声を掛けて頂いて励まされました。差し入れも頂きました。自分の頑張りが、他の方に認められると共に、人の優しさにも気付かされました。街を自分たちの足で歩いて清掃をすることで、街と人と自分の存在が、少しずつ繋がっていくのを誰もが感じる事が出来ました。

平成28年、豊橋中央高校だけでなく、豊橋市内・東三河・三河湾に面した学校(小学校から専門学校まで)にも参加を呼び掛け、歩く視点で街の魅力を再発見しようという試みをみんなで行ないました。

平成29年、清掃エリアのテーマを「渥美半島」とし、フィールドワークを実施。メロン・イチジク・菊・漁業など、地元で頑張る方々の思いにも直接触れる事が出来ました。このことで、街への愛着もさらに深いものとなりました。

## これまでのリアカーボランティアを通して、今、私たちはみなさんと共に活動をしたいと思っています。

微力ながらも地元のために貢献したいと思っています。是非ともよろしくお願いします。



# 美化活動だけではないリアカーボランティアの目的

ユネスコスクールとして  
SDGs 17GOAL(持続可能な開発)の項目を達成する。

 : 関係項目



ゴミ拾いを通し  
責任感やコミュニティを築いていく。